



夏目漱石顕彰
大会案内

第7回

「草枕」国際俳句大会

くまもとお城まつり

とき 平成14年
11月4日(月/休日)

ところ 熊本市民会館大ホール

- 主催＝熊本市、「草枕」国際俳句大会実行委員会
- 共催＝NHK熊本放送局、熊本県文化協会、熊本日日新聞社
- 協賛＝日本航空(株)熊本支店、瑞鷹(株)、
JAグループ熊本／熊本県産米品質向上運動本部
- 後援＝現代俳句協会、国際俳句交流協会、日本伝統俳句協会、俳人協会、
RKK、TKU、KKT、KAB、FMK、熊本シティエフエム、
朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、西日本新聞社、
日本経済新聞社、熊本県、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会

有馬朗人選 (Selected by Mr. Akito Arima)
特選 Tokusen (Second Prize)

Lukewarm midnight.
The moon is silvering
the rusty ship.

訳 銀色に船染め上げて春月夜

パルメーロ エルトレ ホセ
Palmero, Ertore José (アルゼンチン)

講評 Comment

寒くもなく暑くもない夜に月光が注ぎ、錆付いた老朽船に銀メッキをかけている。船は美しい銀色の船体を顕にしている。月光が銀メッキを施すと見立てた処が面白い。

On the shell
of the snail
a snowflake.

訳 雪片や蝸牛の骨の上

クヴェリーエ ウィリー
Cuvelier Willy (ベルギー)

講評 Comment

蝸牛の殻はすでに主を失い半透明に乾いている。一片の雪がそこへ降りた。殻は蝸牛の遺骨。音もなく無機質でありながら温かい。蝸牛の骨に雪片というイメージは詩的である。

across the window
of an abandoned house
a wisteria bloom

訳 廃屋の窓にかかりて藤咲けり

ジェロム クシュマン
Jerome Cushman (アメリカ)

講評 Comment

日差し強い日には白いレースのカーテンも引かれたであろう廃屋の窓。この窓に今は藤の蔓が伸び花をつけている。あたかも住人がまだいるかのように、ささやかな影を提供している。あわれさがあってよい。

A white cat
runs up a tree
A sign of summer
shows up

訳 夏兆す白猫は木に登りけり

奥富 初江 (日本・東京都)

講評 Comment

新緑の木に一気に白猫が駆け登る。夏の初めのぐんぐんと強さを増す太陽光の勢い、それに応える若葉の勢い。爽やかな緑と白の対比もまた夏を予感させる。

Tokusen
(*Second Prize*)

Selected by Mr. Akito Arima

Jerome Cushman

In recognition of the merits exhibited in the

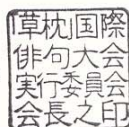
Kumamoto International Kusamakura

Haiku Competition,

we hereby confer this certificate upon you.

November 4th, 2002

Motosumi Shuto



Chairman
International Kusamakura
Haiku Competition